

ネコヤナギ

Salix gracilistyla

ヤナギ科



ネコヤナギ。あまり高くならない

名前の由来

「ネコ（猫）」は、花穂を猫の尾になぞらえたことによるという。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことから、ヤノキの転。②成長しやすいため、イヤナガ（彌長）の略。③梁をつくったことから、ヤナ木。④柔萎木（やわなぎ）の意。などといわれている。漢字名：猫柳

形態的特徴

樹高約3m。葉は長楕円形で長さ7～13cm、裏面に灰白色の絹毛、若葉は表面にも灰白色の軟毛がある。托葉が大きく（1cm）有毛で半月型、遅くまでつく。雌雄異株。花は、雄花序の葯は紅色、雌花序は淡黄色、長さ3～5cm、根元付近から多数の小幹を出し、枝が弓状に曲がりながら斜上する。4～5月葉より先に開花。果実は果序の長さは約9cm、一方に傾く、5月に成熟。

類似種との見分け方：托葉が遅くまで残る点はエゾヤナギと同様の特徴。ネコヤナギの特徴は、若葉の表面に白い毛が多数生えること、若枝にも毛が生えること、冬芽（花芽）が紡錘形で大きく、これにも灰白色の毛が多数生えること、など。



ネコヤナギの雄花



ネコヤナギの雌花



実が開いて出たネコヤナギの種と綿毛



ネコヤナギの葉。裏だけでなく表にも柔らかい毛がある



ネコヤナギの樹形。春先、雄花が咲いているところ



ネコヤナギの樹皮



(上) ネコヤナギの葉。托葉がある
(下) ネコヤナギの冬芽

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											
結実期		■										

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

中流域の河原、低湿地（沼辺・下流湿地）などの水辺からやや乾燥した丘陵地まで。日当たりの良い所。

分布：国外分布は、朝鮮、中国（東北部）、ウスリー。国

内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全道に分布。水辺から丘陵まで。

十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

4～5月葉より先に開花。他のヤナギより早め。果実は果序の長さは約9cm、一方に傾く、5月に成熟。ヤナギ類の種子には無数の長毛がつき、風散布される。その距離は数

100mから数10kmにまで達するという。寿命は〈小高木～低木類のヤナギで〉20～30年？

他生物との関わり

コムラサキやヒオドシチョウの幼虫の食樹となる。

《ヤナギ一般》花の少ない早春に開花（特にネコヤナギ）するので、この時期の昆虫にとって貴重な吸蜜源となる。また、ヤナギ類は新条（その年に出した枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。



コムラサキ。幼虫時ネコヤナギなどのヤナギ類を食樹とする

植栽関係

枝挿し増殖によって増殖でき、挿し木（埋枝）も有効である。タチヤナギほどではないが、耐浸水性に富むため、浸水河畔林や湖畔林に向く。一般的にヤナギの挿し木には、直径1～3cm（枝齢2～5年生）でまっすぐなものが良く、長さ30cmが基準となる。無理矢理打ち込まず、案内棒など

で穴を開けて、斜めに埋めることが望ましい。上下間違わないようにすることも大切である。埋枝時期は落葉後の晩秋、発葉前の早春までが適当である。なおクロボク土といわれる黒土を客土してはならないという。

興味深い話

■花材に用いる。

■種名であるネコヤナギは「猫柳」であるが、猫柳という言葉は一般的に、必ずしも本種ネコヤナギを指さず、早春花穂（猫、英名catkin=子猫）を出した状態のヤナギ全体を指す。特に花穂が大きいエゾノバッコヤナギ（別名エゾノヤマネコヤナギ）を指すことも多い。

■ネコヤナギは別名をエノコロヤナギと言い、意味は犬の子の柳で、花穂を犬のしっぽに見立てたという。〈ヤナギ一般について〉多くのヤナギ類は挿し木に向いていて、「さし木にも風はそよぎて柳かな」（里童）という俳句があるほどである。『万葉集名物考』（著者、刊行年代不明『日

本文学古註釈大成』に収録）には「柳は枝を折て地上にさしおけば生ひやすく根植はかへりて育たぬもの也」とあって、挿し木の場合は根付きやすいが、移植は育ちにくいことを示している。しかし一般的にヤナギ類は、移植には強いと言われ、相当大きな木でも発葉前の適期に移動し、枝をかなり剪定することでより良く活着するという。

■ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。

配慮事項

枝挿し増殖によって増殖でき、挿し木（埋枝）も有効である。タチヤナギほどではないが、耐浸水性に富むため、浸

水河畔林や湖畔林に向く。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「山溪カラー名鑑 日本の樹木」林弥栄 編 山と溪谷社
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅

麗 編集 柏書房 1996
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001
「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ